



学校だより

令和6年2月29日
横浜市立茅ヶ崎東小学校
校長 宮本 仁志
都筑区茅ヶ崎東2-11-1
Tel 943-0802・0803

学校教育目標『笑顔いっぱい 夢いっぱい 未来を創る東っ子』

相手との距離感

校長 宮本 仁志

少し前に新年を迎え、1月の学習がスタートしたと思っていましたが、あっという間に3月となってしまいました。昔から、1月（いってしまおう）、2月（にげてしまおう）、3月（さってしまおう）と言われているように、この時期は時間のたつのが早く感じられます。

さて、1月には、23日は「電子メールの日」「ふみの日」、30日は「3分間電話の日」がありました。現在、人とのコミュニケーションをとる方法として、携帯電話やスマートフォンの「電子メール」や「無料の通信アプリ」などを利用している人が多くなっています。子どもたちの中にも、友だちとの連絡手段に使用している人がいるようです。しかし、この方法は、相手がどんな表情でいるのかが見えないまま行われています。相手の顔が見えないことから、相手の気持ちを考えずに一方的に自分の気持ちを話してしまい、相手を傷つけてしまうことに気が付かないこともあります。そのため、子どもたちには、相手の気持ちも考えながら、利用してほしいと伝えています。

相手の顔を見ながら、相手の気持ちを考えながら話をするのができていても、人とコミュニケーションをとるために、相手との距離感というものも意識している人はそんなに多くはないのではないのでしょうか。人は、話をしている相手が自分に近づくことが許せる空間以上に侵入してくると、不快感や嫌悪感を持つことがあるそうです。アメリカの学者によると、人がもっている他人との距離に関する意識は4つに分類されます。その中でも一番近い密接距離は45cm以内で、ごく親しい人が許される距離になるそうです。その他にも、友人同士で個人的な会話ができる个体距離（45cm～1.2m）、あらたまった場など身体が触れない社会距離（1.2m～3.6m）、講演会などの公式な場での公共距離（3.6m以上）となっています。集団で生活する学校では、この距離感を学ぶことができます。少なくとも1クラス30人前後の相手がいる、その中でお互いに心地よいコミュニケーションが築けるようになるためには、相手の言動をある程度予測でき、周囲との適切な距離がとれることが大切になります。茅ヶ崎東小学校の子どもたちには、たくさんの人と接し、たくさん話をする中で、この相手との距離感と、相手の顔を見ながら、相手のことを思いやりながら話をするのできる子どもたちに育ってほしいと思っています。

これからも、本校の学校教育目標である「笑顔いっぱい 夢いっぱい 未来を創る東っ子」を皆様と育んでいきたいと思えます。自分で考え、自ら学ぼうと行動する子どもたち、相手の気持ちを考えて思いやりをもって行動できる子どもたちを保護者の皆様、地域の皆様とともに育んでいきたいと思えます。

一年間、皆様の学校教育に対するご理解・ご協力に感謝いたします。ありがとうございました。

令和6年度も引き続き、よろしく願いいたします。